

会 議 録

1 会議名

令和7年度第4回八千浦区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

・町内会活動の情報整理について（公開）

3 開催日時

令和7年12月16日（火）午後6時30分から午後7時40分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

・委員： 大島会長、笠原（武）副会長、伊倉委員、木南委員、佐藤委員、
竹田委員、平野委員、古岡委員、柳澤委員、渡邊（修）委員、
渡邊（裕）委員（欠席者1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【大島会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：柳澤委員、渡邊（修）委員に依頼
- 議題【自主的な審議】町内会活動の情報整理について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料No.1 「第4回八千浦区地域協議会資料 1～4」

資料No.2 「八千浦区海岸美化活動情報一覧（R7年11月地域協議会委員調べ）」

に基づき説明

【大島会長】

資料の情報量が多いので、40分まで皆さんに読んでいただいてから質問を伺うこととする。

たくさん情報があるので、一度に全体の情報を見るというのは難しいと思うが、各委員のお住いの町内会行事ということで情報を提出いただいた。ここに事務局が記載した行事等があるので、黒井町内会から順番に、補足や修正する点をお伺いしたい。

【木南委員】

黒井町内会は、ほぼここに書いてあるとおりである。クリーン活動については、去年までは5月、7月、9月の年3回やっていたが、熱中症予防のために7月を中止にして5月を6月開催にし、年2回にした。クリーン活動の参加者は、基本的に全世帯が対象になっていて、活動する場所は、13組あるので、各組ごとに範囲を割り当てて行っている。

公園清掃は、5月から10月まで、毎月公園の草刈りを行っている。

環境部会による環境パトロールも毎月行って、通学路の危険箇所のチェックや、アメリカシロヒトリの防除の必要性等についてチェックしてもらっている。

【柳澤委員】

上荒浜町内会は、記載のとおり、世帯数が19で八千浦区内も小さな町内会である。

クリーン活動は、前町内会長のと時から年に2回、4月と11月に行っている。クリーン活動に合わせて、通学路の危険物やごみを拾う作業も行っている。参加者は全戸対象だが、高齢で歩くこともままならない人は対象外として、都合のよい、出られる方から出てもらっている。

【古岡委員】

南荒浜町内会は、これといったクリーン活動は、1年を通してやっていないのではないか。定期的な海岸清掃があるのは存じている。5月、10月だったと思うが、私は詳しくないがクリーン活動はないと思う。

【笠原（武）副会長】

下荒浜町内会は全部で10組あり、草刈りは町内役員と各組長さん、環境衛生部で約30名、5月、10月のクリーン活動は、町内各戸1人ということで、都合がつかない人もおられるが、子供を含めて130名ぐらいで行っている。

下荒浜の場合は、中学校前、北側の周回道路、通学路もあるので、そこもクリーン活動の中に含めてやっている。最大の活動場所は、国道8号線の側道両側を重点的にやって、そちらに人員を割いている状況である。

【伊倉委員】

遊光寺浜町内会は、神社の草刈りと書いてあるが、神社は境内ともう一本奥の神社のほうの市の土地も含んでいて、それと旧公民館の跡地等を草刈りの人と片付けの人と半々ぐらいに分けて、5月と7月に行っている。7月については、秋祭りの準備ということで境内の草刈りをしている。

町内美化運動は海岸だが、八千浦交流館はまぐみに面している通りと、海岸の一番奥の北側の通りを、春は組ごとの当番に分かれて、6組のうち2組が出ている。10月の町内美化運動についても同じことだが、当番は多めにしあり3組、それから小学校5年、6年、中学生にも参加していただいている。

記憶がはっきりしないが、何年か前の9月か10月頃に、中学生が出てこられて花壇の草取りをしていたが、ここ1、2年は中学校のほうから何も報告ないということでやっていない。数年前までは「川さらい」があったが、危険な箇所も多くやめた。

年々高齢者が増えてきているので、もし怪我でもしたら大変だということで、高齢の方はクリーン作戦等に出てこないようにして進めている。

【渡邊（修）委員】

夷浜町内会では5月からクリーン活動をしているが、7月は熱中症対策ということで、朝6時に早めて動いている。10月は朝8時である。組から2人割当てで、皆さんで動いている。1回に45人程度となっている。今までは、7月には中学生からも参加してもらっていたが、コロナの影響等があり、今は中学生は参加せずに夷浜町内の人員で動いている。

町内会活動ではないが、釣りクラブの海岸清掃は会長が長野県の人で、夷浜のごみがひどいということで、自主的にごみ掃除をしていただいているということである。大変ありがたいことだと思う。

また別に、八千浦地区明るい町づくり協議会（以下：明まち）の生活環境部の活動も

ある。夷浜町内会長が生活環境部の部長であるため、情報を提出している。7月26日も生活環境部が朝7時からパトロールしている。

一番ひどいのは5月のクリーン活動の時のごみの出方である。釣り人とは関係ないのかもしれないが、冬が過ぎた5月のゴールデンウィークのごみの不法投棄がすごいということである。それに対して非常に憤っている。

11月29日にパトロールした時に、「ごみを捨てるな」という看板の下に不届き者がどっさりごみを置いていった。あまりにもひどいということで、三ツ屋交番に連絡し警察官に来ていただいた。それから警察からも、時々パトロールしていただくことを了承していただいた。これから写真を回すので、確認してほしい。

【平野委員】

西ヶ窪浜町内会は、海岸美化活動は、毎年4月から10月まで7か月間毎月やっている。時間は、朝8時から1時間程度、夏は暑いので、7月、8月、9月については、朝6時半から涼しいうちにやっている。10月になると少し涼しくなってくるので、8時にまた戻り、30分から1時間ごみ拾いをしている。人数的には、西ヶ窪町内の家の数は195軒あり、基本的には各戸1名出ている。195軒が13組に分かれていて、4月から10月までの7か月間、順番に毎月2組、7月だけは1組でやっている。町内2組、大体多いところで約20軒、30人ぐらい、少ないところでも20軒、20人ぐらいが集まって、ごみ拾いをしていただいている。

補足になるが、町内の美化として保安林の整備を5月から10月まで、毎月各組から2人、13組あるので26人の方から出ている。去年までは26人でやってきたが、高齢化になり大変だということで、今年から各1名、1回13人で毎月やっている。そのほかに、各組の草刈りを、資料には6・10月と書いてあるが、6月から10月まで毎月、基本的には各組全員集まってやっている。

【大島会長】

ここには記載されていないが、釣りクラブの方の情報も書いてあるので、是非、八千浦の若手グループである「つなゆう」のお話も聞かせていただきたい。渡邊委員いかがか。

【渡邊（裕）委員】

つなゆうは、去年から活動を始めたばかりなので定期的にやっているわけではないが、基本的に子どもと海をつなぐというところに重点を置く活動の中で、海岸清掃を含め、

10月のように釣りのイベントをやってみたりしている。海岸清掃を必ずやるというわけではないが、海をよく知ってもらおうというところで活動しているので、今後もいろいろな活動があると思うので見てほしい。よろしく願います。

【大島会長】

皆さんから詳しいお話を聞かせていただいた。

事務局の資料にあるように、7月のグループに分かれての意見出しでは、「海岸清掃は町内の役員しか参加していないのではないかと？各町内でどのように海岸清掃参加者を割り当てているのか？若い人は回覧板で周知されても見ていないのではないかと？ボランティア任せは限界か？報酬の検討が必要か？」といった意見が出ている。ちなみに、海岸清掃、道路脇もそうだが、空き缶やプラごみを中心だと思うが、上荒浜さんの4月のように枝葉もある。ここに記載されていないことで、こういうごみもあるということがあれば、お話しを聞かせていただきたい。

【竹田委員】

先日、町内会長さんから、ごみもそうだが、ポイ捨て注意喚起の看板の周りに草やツタなどが生い茂っていて、看板がよく見えない、せっかく設置してあるのに、その看板が見えないというのはどうなのかという話があった。確かにごみもものすごく多いが、草、枝、木などが生い茂っていることによって、ごみを捨てやすい環境が出てくるのではないかと考えた。夷浜町内だけではなく、ほかの町内会の方たちとも連携をとって、そういうものもどうしたらいいのか話し合っていくのも一つではないかと感じた。

【大島会長】

今、竹田委員から看板の周辺という意見があった。皆さんの地域にある看板が劣化していたり、草が生い茂っていたりという点についてはいかがか。

【木南委員】

黒井では、黒井の国道へ出る立橋の下に不法投棄が多い。草が生い茂っている。ごみ捨ての禁止の看板は2枚立っている。立っていても草が生い茂って、見えなくなっているという状況にある。

あそこの土地は市道の下なので、市役所の道路課に依頼はしているが、費用の関係か、刈ってもらえない。町内会では、そこの草刈りは対象外にしている。大型のごみで船も捨ててある。ずっと前からそういう状況で、あまり私自身も見に行きたくない気持ちである。

【平野委員】

皆さんからいろいろと意見をいただいて、大変参考になることをお聞きした。お話しいただいている内容は、町単位の海岸以外の草、ごみ、海岸の草、ごみがちちゃ混ぜになっているような感じがする。今回ずっと話して来たが、海岸の美化に絞っているかと思うので、それ一本に絞って話をしたほうが、話がまとまってくるのではないかと思う。

【大島会長】

最初に申したように、今日は、町内活動の整理をメインに行っている。海岸美化から始まったが、町内の行事等いろいろ出してもらったので、せっかくだということで、町内活動の全体の整理を今日はしていきたいと思う。

その延長線上で、最終的には海岸にたどりつくのだが、海岸ではないところの対策も海岸に生かされるかもしれないので、今日のところはご理解いただきたい。

皆さんからたくさんの意見が出たので、事務局は次の説明に進んでもらいたい。

【丸山主任】

・資料No.1 「第4回八千浦区地域協議会資料 5」に基づき説明

【大島会長】

今ほどの事務局の説明に対し、質問や意見はあるか。先ほどの続きの質問や意見でもよい。八千浦区全体の取組みとして、是非意見をお伺いしたい。

【渡邊（裕）委員】

資料No.2を見ると、大人がやっている活動が多く記載されていて、子どもの活動についてはあまり書かれていない。各町内では、どのように子どもも参加できるような活動をされているのか教えていただきたい。

それから、子育て世代で、私自身も子ども会等で関わることが多いが、今、特に中学生は、育成会が各町内でなくなってきていて、西ヶ窪は残っているが、ほかの町内では育成会がないという話を聞いて、ますます地域の活動等に子どもが関わらなくなっている状況があると思う。西ヶ窪の場合、子ども会は、夏休みの朝、担当されている当番の組の大人と一緒に海岸清掃に参加することになっているが、中学生はゼロに近い状態である。だんだんと子どもが参加できる機会も減り、子どもが参加する気持ちが薄れてきていることをすごく感じる。皆さんの町内では、どのようにされているのかお聞きしたい。

【竹田委員】

中学生が参加するような行事、例えば夷浜として、さいの神やお祭りのときのお手伝いがあったが、コロナ以降、そういう行事が全てなくなった。子ども会自体がないのではないか。小学生は若干、お祭りのときにおみこしを引くという行事があるので、そのときのみ活動しているのではないかと思う。

お祭りの時に、相撲大会や風船割りといった行事もあったが、人数も少なくなり、コロナという大きな問題があって以降は、そういう行事もなくなってきている。

最近になって、ゲームをやったりはしているようだが、参加に値するような子どもの行事は少なくなってきていると思う。

【笠原（武）副会長】

子どもの参加としては、荒浜の場合は、クリーン活動を年に2回、小学生や幼稚園児でもいいので、(子どもが) いる方にはできるだけ出してもらっている。

子どもの参加は、秋祭りに、コロナのときはできなかったが、ここ2年ほどは、ゲームをしたり、焼き鳥やジュース等の販売を町内の役員さんがやって子どもを集める。最後は、ゲームで遊んで解散という形で、少しずつでも子どもが家に閉じこもっているのではなくて、外へ出て関わりを持たせるということにしている。

【平野委員】

先ほど渡邊（裕）委員から、育成会はまだ西ヶ窪浜にあるという話があった。今回のテーマとは少しずれるが、去年から秋に町内の防災訓練をやっている。そこで、育成会を対象にした防災の教育的なものを去年と今年やった。でも、中学生はほとんど出てこない。小学生も今年は10人くらいだった。去年は13、14人くらいいた。去年も今年も中学生は出て来ず、小学生のみだった。

【木南委員】

黒井も何年も前から中学生の育成会はない。育成会があるのは小学生だけである。

黒井では、子どもらが一緒に参加して行う美化活動としては、クリーン活動に一度くらい中学生ないしは小学校5、6年生が参加するというくらいである。

それから、祭りのときに、子どもを集めるということでイベント等をやる。秋祭りでは、子どもみこしがいつも町内を回るが、今年は中止にして、秋祭りではなくて来年から春まつりでやろうかという話があって、今検討している。要するに熱中症対策である。アラートが出ると、子どもを外に出せないということで今検討している最中である。

先ほどの平野委員から、防災訓練に子どもたちを集めてやるという話があったが、具

体的にどういうことをされているのか。

【平野委員】

去年のテーマは忘れてしまったが、今年は、「おかしもち」という言葉について話をした。「おかしもち」という言葉はご存じか。保育園や小学校では、多分防災訓練のときに、「おかしもち」ということを教えていると思う。

「おかしもち」の「お」は、避難するときに押さない。「か」は、かけない、走らない。「し」は、避難するときに友達同士でしゃべらない。「も」は、避難したら戻らない、何があっても戻らない。最後の「ち」は、火災があったときには、危険なところには近寄らないという話をした。

今年、市から6人が入れる防災テントを4張配備していただいた。今年は1張だけ子どもの家の中に張って、見ていただいた。西ヶ窪浜だけではなくて、ほかの町内も配備されていると思う。

先ほど、木南委員から、黒井は育成会はないという話があったが、ほかの町内はどうか。分かれば教えていただきたい。

【古岡委員】

下荒浜地区の中学校の子ども会は、去年3月をもって終了した。その理由は、毎年いろいろな計画をしても、参加人数はほぼゼロ。去年、私も中学生対象のクリーン作戦に親子で参加したが、男子がゼロで、自分の子も「もう二度と行かない」と言っていた。友だちが行けば行くのだろうが、日曜日開催となると、子どもが早起きしないので来ない。出てくるのは、役員がお子さんを無理やり引っ張って来る形で3、4人くらいいた。下荒浜には中学生が結構いるが、毎年やめようかという話が出ていて、去年の3月で中学校の子ども会はなくなった。

【伊倉委員】

遊光寺浜は、小学校の子ども会は、年間行事でクリスマスパーティー等をやっている。南原と遊光寺浜が一緒になっていて、人数としては、小学生は南原のほうが多い。1年から6年まで、トータルで20人はいない。中学校に関しては、南原と遊光寺浜を合わせて3人しかいない。来年はどうなるのか把握していないが、ほとんど中学生の活動はしていない。小学生は、4月の春祭りにはほとんど参加していないが、秋祭りについては、夜店と消防を含めて手持ち花火をやっているような状況である。

【渡邊（修）委員】

夷浜はよく把握していないが、今年の1年生が男の子1人しかいないということで、さみしい状況である。昔は同級生が10人もいたのに1人である。これでは良くないのだが、少子化もここまで来たのかと、さみしくて仕方がない。

【大島会長】

皆さんからいろいろな話を聞くと、少子化が地域を活性化させるのに非常にネックになっていると思う。夏になるとコロナがお盆頃に流行って、今はインフルがものすごく流行っているが、そんな状態になるとお子さんたちを集めることもできない。それから、熱中症もある。西ヶ窪の今年の秋祭りのみこしも、熱中症アラートで中止になった。仕方がないが、どんどんそういうところが中止になってきて、学校の部活も学校でやらなくて、校外で地域の人という世の中の流れになってきている。

今日はどうしよう、こうしようということではなく、事務局から作っていただいた資料をもとに、皆さんから新しい意見を出していただいた。

【古岡委員】

来年度小学校に入学される1年生が17人、中学校1年生に上がるお子さんが、確か27人だったと思う。やはり年々減ってきている。

八千浦は、小学1年生から中学3年生までの9学年制で八千浦学園というものがあるが、去年の2月ぐらいに、私はこの協議会で小中でポイ捨てを注意する看板設置を提案した。私自身でいろいろ動いてはみたが、小学校も中学校も忙しくて1年間何も動くことなくここまで来てしまった。是非来年度は、総合の授業等で看板の作成をしたい。4年生は多分海に関しての授業があることが多いので、海にこだわらず、小中で合同でやれば、かなりの数が作れると思う。そのときは、もちろん町内の方と連携をして、授業という形で参加型にして、看板の設置をする。町内ごとに立ててほしいところ、海にたてていくような活動を是非やりたいと思うが、地域協議会として声を上げていただきたいと思うが、事務局いかがか。

【内藤所長】

今のいろいろなご意見を踏まえて、また古岡委員からも、今年度できなかったのも、来年度是非ということでご提案があったので、地域協議会で意見がそのような内容でまとまれば、例えば町内会へ地域協議会として提案するというのもできるのではないかと思います。学校でやるというところは、PTA等との調整はできるか。

【古岡委員】

授業という形で、年間を通してやっていくようにしてもらえたらよいと思うので、学校主体になるのではないか。資金については、去年、八千浦地区の後援会からお金を使っていいと言っていた。年間を通しての計画が必要なので、早い段階で2、3月にはきちんとした話を学校に出さないと、来年度の授業計画がある。去年も早く提案はしたが、私一人では進まなかったもので、地域協議会の協力をお願いする。

【大島会長】

確かネットか何かの記事で見たことがあるが、子どもたちが絵を描いて、例えば海などの大きな絵を描いてみんなに関心を持ってもらう。子どもたちは、自分たちで作ったものだから関心を持つ。いきなり大きなものはできないと思うが、そういうことを少しずつ、せつかく海祭り等のイベントもあるので、今までの同じ催し物ばかりではなく、「今年はここに僕たちの作品を作ろう」などと残していけば、海にすごく興味を持ってもらえるし、そこにごみが落ちていたら、「僕らの作品の邪魔だ」ということで、ごみを片付ける気持ちが湧くのかもしれない。これは、つなゆうが結成した趣旨にも当てはまると思う。その展開で、今後は海岸美化を進めていけたらと思っている。

ごみを拾う、捨てるだけのものと考えてしまうと、今までさんざんやってきているので、行き詰まってしまふところがあると思う。やっぱり子どもたちが参加する、大人たちも参加してもいいと思う。今日はここで決めることはできないかもしれないが、皆さんから出た意見を参考に考えていただければと思う。期限を決めないと話が伸びてしまふが、年明けにでも協議会をやりたいと思うので、そのときには、いろいろなところで子どもたちが参加して活性化しているという情報を皆さんで集めてきていただければと思う。そこでまた意見を出し合って、学校を含め、いろいろな形で発展できればと思っている。

ほかに意見はあるか。

【平野委員】

今、古岡委員、大島会長の話を聞いて、生徒のほうで発案し、看板や図案を作って、それを正式に書いて看板として海岸に立てるのはどうかと思った。そのためには、生徒から図案を書いていただくようになるが、もしそうなった場合、古岡委員はどのようなツールで話を生徒に持っていかれるのか、可能なのかどうか。生徒の図案がオッケーになり、正式な看板にしようとするれば費用がかかってくる。それを、私は明まちにお願いすれば、なんとか明まちでやってもらえるのではないかと思うがどうか。

【木南委員】

明まち事務局の立場として発言するが、来年度の上越市の地域独自予算事業の受付は終わっている。だから予算的に無理だと思う。1万、2万であれば明まちにもそのくらいはあると思うが、大きさによって材料費はかかると思う。

学校のほうに、先ほど話に出た、後援会費等のお金があるかもしれない。年明けであれば、学校関係の集まりがあるので、その時は来年度の予算の話はまだ出ないと思うが、そういうことに使えるかどうか、授業の一環としてできるのかどうか話を出してみる。

【丸山主任】

大きい看板や立派なものを想定されているかもしれないが、直江津区の郷津海岸で活動されている団体は、国府小学校の児童にA3程度の大きさの絵を描いてもらい、簡易な看板を道沿いにいくつか建てている。毎年入れ替えたり、時期が来たら綺麗なものに変える等して、安価な看板を定期的に換えるような手法もある。人が手入れしている海岸であることを見せて、ごみを捨ててもいいと思われぬようにする工夫をしているそうである。やり方については、市内の参考例等を皆さんにご紹介できたらと思う。地域独自の予算を活用している。

【木南委員】

お金の話だが、海をきれいにするためなので、八千浦内の大手企業に声をかける手もあるかと思う。それほど大げさな金額ではなくて、きちんと数字を出せば、出していただけるのではないかと思う。

【平野委員】

今の話の続きになるが、個人的には海岸美化に関していい話で、進めた方がいいと思う。地域独自予算を活用するには、活動は再来年の令和9年になる。こういった順序で進めていったらいいのか、今日ではなくて次回でもいいので、細かいことまで話してもいいと思う。

【大島会長】

平野委員の意見をいかして、うまく進められたらと思う。今日、皆さんからたくさんいい意見が出た。

事務局から何かあるか。

【丸山主任】

・次回協議会：会長と協議し決定

【大島会長】

たくさん意見が出たが、まとめなければいけない部分、整理しなければいけない部分がたくさん出てきた。今日の協議会後に斬新な意見が出たら、ご連絡していただいてもいいし、次回の協議会までに書き留めていただければと思う。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。